

〔解 説〕

南滿洲小市炭田の地質について

○震旦系 華北滿洲の上部原生代の地層で、南滿洲太子河地方ではその上部を細河統といい、下部より鈎魚台珪岩南攻頁岩橋頭珪岩の3層群に大別される。

○寒武系 南滿洲のカンブリヤ系は遠藤隆次博士の区分に従うと次のようになる。

下部は三崎、石橋の2統、中部は當十、太子、崗山の3統、上部は白山、台山、燕州の3統で、化石からみると地域により不整合がある。

○奥陶系 太子河沿岸地域のオルドビス系は小林貞一博士は下部上り層々、臥龍、豆腐の3統とし、それぞれ特有の頭足類三葉虫を有している。

○繭虫状石灰岩 球状の小粒子が集った石灰岩で粒の直径は極めて小さいものから時に數mm以上にもなるが、一般に断面でみると微粒核を中心に同心円状の構造をしている。その核を中心に海水中の石灰分が沈んで生じたもので、現在でも熱帯のある地域では盛んに生成されている。

○蠕虫状石灰岩 石灰岩の風化面で見ると殊に著しいが、断面では幅1cm前後から數cm、長さ數m以上の塊の部分層をしてならんで、丁度虫がはつている様な感を與える石灰岩である。石灰岩の出来た場所が極浅い所で時に空中に出て乾裂が生じたりしたものがその後に変形し、切れ切れに砕けてできたものをいう。一般には古期の古生代の石灰岩にみられる。

○大渦巻石灰岩 一般にトリプトゾーン（又はコレニヤ）石灰岩ともいわれ、石灰岩の中に直径10cmから10數cmにも及ぶたまねぎ状の構造をした塊があるもので、原始的な分裂藻類のあるものが、その表面に石灰分を沈着したものといわれる。先カンブリヤ紀に多い。生物の少ない石灰岩中では1の重要な示準層となる。

○礬土頁岩 Al_2O_3 の多い粘土岩の中でその量45%以上のものをいい、以下のものは硬質粘土として區別する。一般にねずみ色で良質のものはダイアスポアの粒が澤山にあつて粗面であり、 Al_2O_3 の量も多いものは65%に達しアルミニウムの原料ともなり。普通のものでも良好な耐火煉瓦の材料として冶金に重要視される。滿洲朝鮮の石炭二疊系に産し、南滿では最上部の A_0 から A 、 B … G 層までであるが殊に著しいのは A 、 G の兩層である。一般の炭層の下盤の粘土とは成因が別と考えられ、むしろポーキサイト生成に近い状態の下でできたものとされる。 SiO_2 の含有量の少ないのも1の特質である。

○紡錘虫 後期古生代特有の生物で、當時の海に繁えたものである。原生動物有孔虫科に屬し、米粒から大豆位の大きさの紡錘形か、球形で中心

軸の周りにらせん状に巻いた殻を持ちその殻は又多くの小室に分れている。非常に短期間に種々の構造上の變化をしたもので、石炭二疊系の重要な標準化石である。我國の古生層にも多く、集つて紡錘虫石灰岩を作っている。

○宮の原層群 南滿洲本溪湖の宮の原を標式地とする地層で、赤褐色系の礫岩砂岩等を主とする火山性の物質を混じり、白堊紀の陸成地層と考えられる。

○モンゾナイト斑岩 粗粒斑状の灰白色火成岩で主成分は正長石曹灰長石輝石等で石英白雲母等を含む外観花崗岩に似ている。日本には稀である。

○接觸鑛床 水成岩中に火成岩が噴出してその岩漿のガスや鑛液が周圍の水成岩に作用して出来た鑛床である。石灰岩と花崗岩の接觸の場合が最も多く、磁鐵鑛黄銅鑛などは主な接觸鑛石である。

○石炭二疊系 上部石炭系には海成と陸成があり、海成はロシアのウラル地方が標準となつている。上部石炭系の下部をモスコウ統、上部をウラル統、二疊系下部をサグマル統という。各統に紡錘虫の標準化石があつて地層は細分される。海成層の發達するのには東歐から印度支那日本及び北米の1部が主で、西歐北米その他では上部石炭系は陸成層で主要炭田を作っている。

○衝動及び覆瓦構造 逆斷層の中で斷層面が低角度であるものを衝動斷層と稱し、下の地塊に上の地塊がずり上つた場合を衝上、逆に下の地塊が上の地塊の下に衝込んだのを衝下というが區別は中々困難である。褶曲運動の極限として起り易い。衝動運動が幾度も繰返して行われて、地層が互をふいたように大小切れ切れに重なつて分布している場合を覆瓦構造或は鱗片構造という。

○化石について

Bailiella, *Redlicia* 等は節足動物の三葉虫の1種。

Acrothele, *Lingulella* は腕足介の三味線介科の小さな二枚介。

中部太子河系の化石は主に石炭植物であつて、*Calamites* (芦木、とくさの類) *Cordaites* (裸子植物)、*Stigmaria* (*Codaites* の根) 以外は總てした類又は種子した類のものである。

富山縣西部及石川縣東部の第三紀層

地學の初歩お學んでこの論文お讀まれる方々參考となる事項お次にのべる。

日本の含油第三紀層 日本で石油のでる地層わ全部新第三紀層である。新潟や秋田の油田地方の新第三紀層の下部には(1)綠色凝灰岩とよばれる火山噴出物からできた地層があり、その上に、